

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372801037
法人名	社会福祉法人 嘉悠会
事業所名	グループホーム 康寿苑
訪問調査日	平成 20年 2月 21日
評価確定日	平成 20年 2月 26日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4372801037		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム 康寿苑		
所在地	上益城郡嘉島町北甘木2082-1 (電話) 096-237-3008		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3-19長安寺ビル402		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	2月26日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造 サイディング貼 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	315 円
	夕食	315 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (1月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西村病院 ひがし歯科医院 ひかりヶ丘医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熊本市に隣接する嘉島地域には湧水池が多く、天然プールもある。田園風景も見渡せるホームは関連施設の病院と特別養護老人ホームとの間に建てられており緊急時の連絡体制が整っており入居者や家族にとって安心である。グループホームは、中に入ると入居者と職員の和気藹々とした雰囲気を感じられ、アットホームな様子が伺える。今年の5月には移転先も決まっておりますホームの環境がかわり今後は楽しみなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域の行事に積極的に参加する」改善項目では、地域での祭りや小学校等の行事に参加し、地域の人たちとのふれあいの場を持つことで改善に繋がっている。また「ヒヤリハット」や事故が起きた場合は早急に原因、対策を話し合い検討して、再発防止に向けた取り組みが行なわれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について職員で話し合いをし個々の職員は意義は理解している。今回の自己評価に関しては職員が全員で取組むまでは至らなかった。今後はホーム全体の課題としてとらえ共有することが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	これまで4回開催し、行政の職員や地域の役員、民生委員、入居者の家族などで構成され、ホームの状況報告などに加え認知症についての理解・啓発を盛り込んでいる。議題に上がった意見を活かす取り組みに期待がもたれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時や家族会の際には意見や希望が出やすい雰囲気づくりに努めている。意見が出た場合には職員で話し合い運営や介護の質の向上につながるよう努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	買い物や通院・散歩等では、話をしたり挨拶を交わして交流している。小学校の行事や祭りにも出来るだけ参加している。今のところ、外出する機会はあるが、近隣の住民が気軽に訪れる機会は少ない。5月に移転予定とのことでも、新たな展開に期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(<input type="checkbox"/>)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作った理念を見直し、地域との関係をより密接にし、また安心して暮せるような支援を理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1度のミーティング時に皆で理念の確認を行い、日々のケアに活かせるよう意識づけをしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くにある足手荒神の祭りに出かけたり、小学校の行事等に参加をし、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について職員で話し合いをし個々の職員は意義は理解している。		自己評価は職員全員が計画的に行えるような機会をつくり、組織としての課題や自分自身の課題などが明確になるような支援を望みます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは地域の役員や行政の人など大体8~10名程で、ホームの状況報告や認知症についての勉強会も実施している。会を重ねる度に意見も出るようになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	関連施設が直接連絡係になっていて協力体制ができしており、電話などで相談したり情報をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人としての便りを定期的に発行し、入居者の状況を一筆添えて送付している。その他にも面会時や電話で入居者の状況を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度家族会を開催し、また面会時には声かけをし希望や意見を言ってもらえるよう働きかけをしている。出された意見や希望に対してはミーティングで話し合い、改善に向け努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による入居者への影響は十分承知している。離職者や職員の交代が多いのが現状である。		環境整備や職員のストレス緩和などについての話し合いや、相談の機会を作っては如何でしょうか。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の法人内での勉強会に参加をしており、外部の研修会には交代で出かけている。また新任向けの研修もしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内での連絡会が2ヶ月に1度はあり、その研修会や意見交換会に参加し職員の質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に入居者と家族は共に見学をしてもらったり、こちらから出向いたりして馴染みの関係をつくるよう努力している。入居時は家族や親類の協力を得ながら徐々に馴染んでもらっている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の傍に寄り添いながら、本人の思いが分かるように努めている。本人から料理の作り方や昔からの言い伝えなど教わったりしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来る限り一人ひとりの声に耳をかたむけ、行動や表情からも思いを感じるように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族、またデイサービスに通っていた人はデイサービスからの情報のアセスメントを基に管理者(計画作成担当者)がプランを立てている。</p>		<p>入居者・家族の希望や意見を聞き出す環境づくりや、職員ミーティングの記録作成等、ケアの課題の整理・分析などを、関係者で共有し、それに基づいた支援計画が望まれます。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ミーティング時に変化や気付いたことなどを話し合い、それに即したケアサービスを支援している。計画書変更は年に1度程度行っている。</p>		<p>入居者1人ひとりの定期的なアセスメントやモニタリングを職員が共有化し関わりを持てるような取り組みを構築・検討していくことを期待します。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院やデイサービスの送迎等、要望に応じ柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重した対応をしている。隣にある法人医療施設の通院には職員が付き添い、他の医療施設受診時は家族も一緒に付き添い同行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の希望を尊重し、かかりつけ医とも相談しながら対応している。入居の際にホームの方針は説明しているが、文書化まではしていない。		文書化されると共に職員の研修・学習会を定期的を実施されることを望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に接し方には配慮しており本人のプライバシーを損ねるような対応が無いように職員は心得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事のペースなど一人ひとりのペースに合わせ、思いに沿った支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞きながらメニューを考え、買い物は週に3回程度入居者と一緒に出かけている。後片付けや皿拭き、おやつ作りなど入居者と共に楽しみながら行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日(週3回)には、1日かけてほぼ全員が入浴している。本人の希望やタイミングに合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事をする人・編物など趣味的なことを役割や楽しみ事として支援している。外食や映画鑑賞、芝居見物などの楽しみ事や気晴らしをする方もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや食料品の買い物や法人内のデイサービスなどの外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を認識しており、日中は鍵はかけていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年は地域の消防団の協力を得て法人関連の特別養護施設と合同で入居者も交えて避難訓練を行なった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量はチェック表に記録し全員で共有している。水分補給に対しても配慮し一人ひとりに合った支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は花などで季節が感じられるようにし、日差しにもカーテンやスタレ等で配慮がしてある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや仏壇、たんす、ホットカーペットなど持ち込まれており、それぞれの居室にふさわしい個性が感じられる。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 康寿苑
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県 嘉島町
記入者名 (管理者)	伊豆野 政代
記入日	平成 20年 1月 23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>家族には勿論、地域に対し、理念や方針を理解して頂けるよう、ふれあいや話し合いの場を設けていきたい。運営推進会議でも、繰り返し訴えていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>地域の奉仕作業等に積極的に参加していきたい。今春移転予定のグループホームは住宅地の中にあり、近くの幼稚園や小学校は今も交流があるので、より地域のつきあいが深まるようふれあいの場を多く持ちたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ミーティング等で話し合い、認知症についての質問や疑問がある時は、随時、相談に乗ったり、説明を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全体で話し合いをしながら取り組んでいる。意義については理解しているが、確実な改善には繋がっていない。		改善のため、アイデアを出し合い、確実に検討し、具体的に計画を立て、実践していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、活動状況等の報告を行い、意見交換の場となっており、回を重ねるごとに多くの意見が出るようになってきている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明なことがある時は、電話等で報告・相談しながら、協力を得ており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修会参加にて理解を深めているが、これまで必要なケースが無く、他のスタッフは理解できていない。現在必要な方はいらっしゃるが、体制は十分といえない。		研修会への積極的な参加や勉強会の開催を行い、理解を深めたい。 定期的に確認の場を設ける。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等において、確認の場を設けている。虐待禁止をスタッフ全員理解しており、防止の徹底に努めている。虐待禁止をスタートとして職員に伝えた上で防止にあたっているかも問われる所かもしれない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	丁寧な説明を行っている。事業所でできる事、家族にお願いする事等説明している。疑問点については、特に詳しく説明し、理解して頂けている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の言葉等から思いを理解するよう努力している。尚、会話の中で意見を出しやすい雰囲気であるよう努力している。意見については、できるだけ叶えられるよう努力している。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時、必ず心身の状況を報告している。遠方に在住の家族には、電話で随時様子を知らせている。新聞も定期的に発刊し、送付している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	訪問時や家族会等で、常に声かけをし、何でも言って頂けるよう努力している。出された意見は、ミーティングで話し合い、改善に向けて努力している。意見箱を設置している。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティング等で意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションをとり、意見や提案を出しやすい雰囲気を作るよう努力しているが、把握できていない事もあると思われる。個別面談も行っている。		定期的に個別面談の実施を確実にし、より意見や提案が出しやすい機会を作り、反映させていきたい。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	管理者は夜勤に入っていない為、夜間の対応は利用者の状況に応じた柔軟な体制がとれている。職員の急な休みの時は、他の部署からの応援体制ができています。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	馴染みの職員の支援が重要と考えているが、離職が多く、職員の交替が多い。新しい職員が入った場合、自己紹介の時間を取り、コミュニケーションを図っており、関わりの時間を多く持つよう努力している。		離職を最小限に抑えるため、意見・要望を遠慮なく言える機会を作っていきたい。 (定期的、随時の個別面談の実施)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には交替で参加している。定期的グループ内の全体勉強会時、研修報告を行っている。全体勉強会には、ほとんどの職員が参加している。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内に連絡会があり、その中でスタッフ研修や意見交換会を設けて、質の向上に繋げている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	他のグループホームとの交流に努め、気分転換を図っている。休憩室が無く、勤務中の気分転換を図れない状況である。	現在グループホームを建て替え中であり、そこには休憩所を設けてあり、少しでもストレス軽減に努めたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎日、職員から現場の状況や変化の報告を受け、把握に努め、各職員の悩みを把握している。働きやすい環境を、できる限り整える努力をしている。職員の能力を伸ばす声掛けを心掛けている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	側に寄り添い、本人の声に耳を傾け、思いを知ること努め、いろいろな事を教えて頂いたり、協力し合うという姿勢を大事にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いをしっかり聴き、思いを受け止める事に努め、職員の思いも伝え、協力関係を築く努力をしている。情報交換に努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊など家族と一緒に過ごされる事に協力したり、いつでも面会でき、居室でゆっくり過ごされるよう努力している。家族も一緒に行事参加して頂き、より関係作りに努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人等気軽に気兼ねなく遊びに来られるような雰囲気作りに努めている。		こちらから遊びに行けるような機会を設け、交流を図って行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事中など共通の話題を提供する事により親しい関係が築けるよう努力している。食器拭きや洗濯物たたみ等を通して、会話しながら仲良しの関係ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時々、ハガキを書くなど関係継続に努めている。退所後も家族が来苑される事がある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの声に日頃から耳を傾け、思いを把握する事に努めている。 日々の行動や表情から感じ取る事に努め、家族と相談しながら検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族から、できる限り把握に努めているが、本人が忘れられていたり、家族が本人の暮らしぶりをあまり知られず、把握が難しいことが多い。		親類や友人の方の面会時にも情報を集め、より多くの情報を収集し、把握に努めたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムが分かっており、言葉や行動から、できる事、できない事、分かる事を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思い、家族の思い、要望を聴き、自分らしく生活できるよう介護計画を作成しているが、十分とは言えない。		本人・家族が、思いや要望を遠慮なく言える雰囲気作りを徹底し、スタッフ全員でその人らしい生活を送って頂けるようなケアを提供していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを確実に実施するよう努力しているが、確実にはできていない。		状態に変化が生じた場合、期間終了の際、確実な見直しをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに身体的状況、日々の生活の様子、本人の言葉等記録を行っている。 全スタッフが随時、確認を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の消防団の協力で、合同避難訓練を行っている。 地域の小学校の卒業式に参加しており、ふれあいの場を設けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループのデイサービス参加を時々行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在ほとんど関わりを持っていない。		今後、運営推進会議に地域包括支援センターの方にも参加して頂くよう声掛けし、関係を築きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にしている。ほとんどの方が近隣の協力病院を希望されており、連携が取れている。受診付き添いは家族同行でお願いしているが、困難の時は、職員が付き添いをする事もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要性を感じた時は、ご家族に相談し、受診して頂いている。専門医との信頼関係ができており、いつでも気軽に相談を受けている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特養の看護師、隣接病院の看護師に日頃から相談し、アドバイスをもらいながら支援している。協力体制ができている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師・看護師と常に情報交換や相談を行い、早期退院に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族・本人の希望を尊重しながら、かかりつけ医と話し合いをしながら対応しており、方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医に相談しながら、できる限りの支援を行っている。利用者の状況変化時の対応については、兼ねてから、かかりつけ医の協力体制ができている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やケア関係者の話し合いや、情報交換を行い、安心して暮らして頂くよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常に関わり方の確認を行い、さりげない声かけに努めている。 職員の意識の向上を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>無理強いせず、利用者一人ひとりに合わせた声かけを行い、職員が決めた事を押しつける事はせず、自分で決めて頂くよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間も本人の希望に合わせ、無理強いしない対応に努めている。食事もしっかり、本人ペースで摂って頂いている。一人ひとりの体調を気遣いながら、その時の気持ちを大事に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的にその日の洋服は、本人に決めて頂いている。支援の必要な方については、スタッフと一緒に選んで頂いている。行きつけの美容院へ行かれる方もおられ、できる限りの支援を行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>希望があれば、そのメニューを作っている。準備、盛り付け、片付けは、職員と一緒にっており、特に片付けは定着している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>食不振の方については、Dr.に相談しながら、好物を提供し、カロリー摂取して頂いている。誕生会では、各自の好物を提供し、喜んで頂いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を作成し、パターンの把握に努め、随時トイレ誘導を行っている。水分補給、繊維質の食物を提供し、排泄を促しているが、便秘症の方が多い(ヨーグルト、牛乳を提供している)。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理強いせず、その方の希望やタイミングに合わせて支援している。湯加減等も一人ひとりの希望を把握・対応できている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の体調を観察する事により、必要に応じ休息を促している。又、生活リズムを整える事により安眠を促している。不眠時は、職員とお茶を飲んだり、会話をすることにより、リラックスして頂き、入眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、茶碗拭き、洗濯物たたみ等、お一人お一人に合った役割を見付け支援している。 編み物を職員と一緒に楽しめる方もおられ、外出の支援も行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の方が2～3千円所持されている。 持参の仏壇に供える花を、時々買われている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により、買い物やドライブに出掛けたり、デイサービスに遊びに出掛けたり、散歩を兼ねて近所の「八百屋」に買い物に出掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	隣町の施設を貸し切り、利用者・家族・職員参加で、会食・カラオケを楽しみ、思い出作りを行っている。		利用者の希望を、より多く取り入れ、思い出作りを支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、電話をされたり、手紙を読んだり、代筆をしたり支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関は施錠せず、いつでも出入りできるよう対応している。気軽に訪問できる雰囲気を作り、居室でゆっくり過ごして頂けるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけず対応している。 20時～21時の間に施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して、気配り、目配りに努め、お一人お一人の事を把握し、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品を職員で話し合い、管理方法を決定している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会・ミーティングで確認し、職員全員対応の把握に努めている。事故が発生した場合は、報告書を作成し、事故原因、今後の予防策について話し合い、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救急法の訓練実施をしたり、応急手当等については、勉強会や看護師から随時指導を受け、備えている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団の協力を得て、合同の避難訓練は行ったが、働きかけが不十分である。		定期的に地域の人々、消防団の協力を得て、避難訓練の実施を図りたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時及び随時起こり得るリスクについて説明しており、承諾を得ている。 本人のストレスにならないような対応に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化、異変時は、早めの病院受診を心掛けている。尚、申し送りノート等でスタッフ全員把握できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、各入居者のファイルにはさんでおり、確認できるようにしている。 症状変化の際は、すぐ病院に報告、指示をもらい対応している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食事作りや水分補給に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時と毎食後、必ず声かけを行い、徹底した支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記録し、情報を共有し、一人ひとりに合った支援をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	早期発見・早期対応に努めている。 利用者、職員共にインフルエンザ予防接種施行。 外出後等のうがい、手洗いの徹底を図っている。 ノロウイルス対応についても、準備できている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾やまな板は、毎晩漂白し、衛生に気をつけている。冷蔵庫の点検も頻繁に行っている。台所、調理器具の衛生にも気をつけており、買い物も頻繁に行き、新鮮な物を提供するように心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に、季節のいろいろな花を植え、雰囲気作りに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は狭いが、常に生花を飾る事で楽しんで頂いている。 日当たりが良すぎる為、日除けを使用している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、ソファーだったり、居室であったり、思い思いの自分の居場所を確保されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	住み慣れた家で使われていた馴染みの物を持参され、居心 地の良い空間を作るよう努力している。 仏壇持参の方もおられる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	清掃時、定時、随時の換気をこまめに行っている。室温もこ まめに調整し、利用者の状況に応じ配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	あらゆる所に手すりを取り付けている。 ベッドには、移動バーを取り付け。立ち上がりスムーズにで きるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	場所が分からない方のために、目印を付け対応している。 必要に応じ、ベッド下にマットを敷いたり、ポータブルトイレを 使う等工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	中庭にベンチを設置しているが、時々利用され、特養の入居 者と交流を図っている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個性豊かなグループホームであり、入居者・家族・職員間の馴染みの関係だったり、信頼関係ができており、笑いの声の絶えない明るいグループホームです。隣接に協力病院があり、また隣に特養もあり、緊急時の協力体制ができています。家族との思い出をたくさん作って頂けるような支援を心掛け、お互いが感謝の気持ちを忘れず、支え合う関係を築いています。